

復航

学校では卒業式が終わり、一息つく間もなく入試で慌ただしい日々をお過ごしのことと思います。

さて、生徒たちは4泊5日のホノルル滞在を楽しんだようです。専攻科生は3度目、本科生は初めてのホノルルでした。はじめは恐る恐る上陸していましたが、すぐに慣れたようでした。お土産や自分の欲しい物を買ったり、たくさんのアメリカ製のピザやお菓子そしてアイスクリームを買ってきては、皆で味見をして食堂でワイワイしていました。これも神海丸でホノルルに寄港したからこそ体験できたことでしょう。

神海丸は2月28日にホノルルを出港した後、神奈川県の大磯港に向けて航海中です。3月4日には日付変更線を通り、1ヶ月半ぶりに東経に戻ってきました。順調に日本へ近づいています。

生徒たちは朝6時20分に起床し、点呼・ラジオ体操後朝食、8時から掃除、8時30分から本科生授業、専攻科生甲板作業、12時30分昼食、13時30分専攻科生学習、本科生甲板作業（授業の時もあります。）17時30分夕食、20時30分点呼、22時30分消灯という航海中の生活に戻りました。復航中は、操業はありませんが作業は毎日あり、船体整備と漁具の片づけを行っています。船体整備は船員さん達が「チャンチャン」と呼ぶ船体の錆落としと「カンカン」と呼ぶペンキ塗りです。神海丸は建造されて5年目ですが、それほど錆はありません。錆はワイヤーブラシでこすって落とし、錆止めペンキを塗った後、上塗りの化粧ペンキを塗って完成させます。錆落としもペンキ塗りも結構楽しんで生徒たちは取り組んでいました。



食堂でメイド・イン・アメリカのピザを頬張る生徒たち。



ホノルル停泊中に入港してきたオランダの豪華客船。



出港後にダイヤモンドハットを背にして



ブラン（枝縄）の整備作業をしている水谷君と勤場君。



パタリケットという部品を綺麗に磨いている渋谷君と藤田君。



船員さんと一緒にペンキ塗りをしている熊谷君。